

北海道根室海峡の深海から採集されたイバラモエビ属の 1 新種について

●研究の概要

千葉県立中央博物館の駒井智幸研究課長は、アクアマリンふくしま(ふくしま海洋科学館)との共同研究で、商業用のエビ籠や刺し網で採集された生物の調査を行っており、これまでに多くの興味深い十脚甲殻類(エビ・カニの仲間)を確認してきました。

アクアマリンふくしまは、地元の漁業関係者の協力を得て、過去 20 年間にわたり北海道東部の根室海峡(知床半島羅臼沖)で深海採集調査を実施しています。このうち、2019 年と 2022 年に採集された2個体のイバラモエビ属の標本を詳しく調べたところ、形態学的にも、遺伝学的解析においても既知のどの種とも一致しないことが判明しました。そのため、この標本に基づいて新種を提唱しました。生時には燃えるような鮮やかな赤色をしていることにちなんで、和名を「ホムライバラモエビ(学名:*Lebbeus flammeus*)」と命名しました。



ホムライバラモエビ *Lebbeus flammeus*
中央博物館所蔵パラタイプ CBM-ZC 18243

●発表雑誌

論文タイトル:A new species of the thorid genus *Lebbeus* White, 1846 (Decapoda: Caridea) from deep-sea of Nemuro Strait, Hokkaido, Japan

著者:駒井智幸(千葉県立中央博物館)、松崎浩二(ふくしま海洋科学館)

掲載誌:Crustaceana (クラスタシアナ) 第99巻第9号: 1083-1104.

オランダの学術出版社 Brill(ブリル)が出版している、甲殻類(エビ、カニ、アミ、ワラジムシ、カイアシ類など)の分類学、生態学、形態学などを扱う査読付きの国際学術誌です。

.....
学名:*Lebbeus flammeus*

和名:ホムライバラモエビ

2019 年と 2022 年、羅臼沖のエビ籠漁、525~825m で採集。

アシナガイバラモエビ *L. longipes* に似るが、尾節のトゲが多い(7-9:3-6 本)、体色が全体的に濃く、歩脚(第 3~5 胸脚)に白い縦線が入る(アシナガイバラモエビ:歩脚全体的に白い)などの違いがある。



羅臼沖のエビ籠漁の様子



近縁種のアシナガイバラモエビ
Lebbeus longipes